

⑨ 銚子連絡道路二期区間(国道126号 山武東総道路二期区間)

受賞機関 千葉県 海匠土木事務所
千葉県道路公社

キーワード 営農環境に配慮した高規格道路の整備、
国道及びJR線を跨ぐ橋梁の整備

全建賞審査委員会の評価ポイント

高規格道路の整備に当たり、路線の大部分が農業振興地域を通過するため、地元地区や関係機関との協議を重ね、周辺の営農環境にできるだけ影響を与えないよう配慮しながら事業を推進するとともに、JR総武本線等を跨ぐ宮川跨線橋の架設に際して鉄道事業者等と綿密な協議・調整を行い、工事を完成させた点が評価された。

1. はじめに

千葉県東部に位置する銚子連絡道路は、圏央道の整備効果を山武・東総地域へ広く波及させ、地域経済の活性化や防災力の向上等を図る、極めて重要な道路であり、山武市と銚子市を結ぶ延長約30kmの高規格道路である。このうち、二期区間は横芝光町の横芝光ICから匝瑳市の匝瑳ICまでの事業延長約5kmのバイパス整備事業であり、令和6年3月31日に開通した。



銚子連絡道路整備事業・位置図

2. 事業の概要

二期区間の整備に当たっては、接続する一期区間（有料道路）と管理上密接に関連することから、一期区間の管理者である千葉県道路公社に一部区間の工事等を委託し、早期完成に向け、千葉県及び千葉県道路公社が一体となって事業を推進してきた。

また、路線の大部分が農業振興地域を通過するため、地元地区や関係機関との協議を重ね、横断する農耕車の安全を確保するため、構造を低盛土から高盛土に変更した。さらに、JR総武本線、国道126号現道及び町道を跨ぐ宮川跨線橋の架設に際しては、鉄道事業者、道路管理者及び地元地区と綿密な協議・調整のもと、町道を終日通行止めするなどして、安全かつ確実に工事を完成させた。



二期区間・施工中航空写真

3. 事業の成果

二期区間の開通により、交通転換が進み、交通の円滑化が図られるとともに、安全性が向上した。さらに、救急医療機関へのアクセス改善による地域医療サービスの向上、災害発生時におけるリダンダンシーの確保や地域の防災機能の強化等につながっている。

また、東京方面へのアクセス性向上による物流の効率化に加え、IC周辺では企業誘致や産業用地の整備が進んでいる。現在、事業中の銚子連絡道路事業の他区間と相まって、今後更なる産業の活性化が期待されている。

4. おわりに

銚子連絡道路二期区間は、平成19年度の事業化から約16年の歳月を経て、令和6年3月31日に開通を迎えた。開通に先立ち、匝瑳市及び横芝光町の主催で開催されたウォーキングイベントは、快晴のもと多くの地元住民でにぎわい、本道路の開通に対する期待の高さを改めて実感した。

事業の推進に当たり、ご理解とご協力をいただいた地元地区の皆さまや用地をご提供いただいた方々、関係機関や調査・設計・工事に携わった皆さまに心から感謝申し上げます。今後も山武・東総地域の発展と県民の安全・安心を確保するため、銚子連絡道路事業を引き続き推進していく。

賛助会員 昭和コンクリート工業(株)、
ビーエス・コンストラクション(株)、(株)安部日鋼工業、
(株)横河ブリッジ、(株)オリエンタルコンサルタンツ、
開発虎ノ門コンサルタント(株)、中央コンサルタンツ(株)、
大日本ダイヤコンサルタント(株)、いであ(株)、
(株)千代田コンサルタント